

社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載

127

在宅医療奮闘記

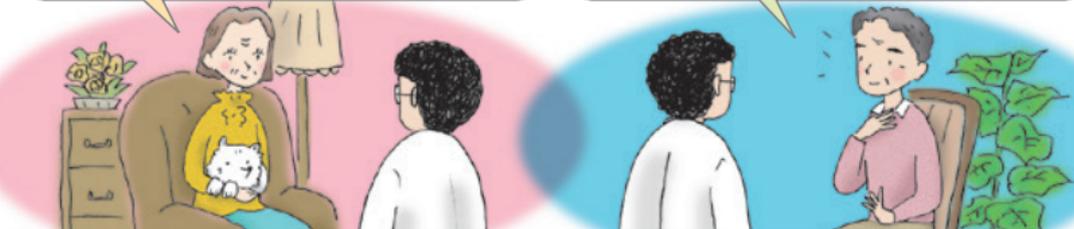
平成7年より
在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長
橋本 満義 (69歳・内科)

いよいよ始まるか“団塊の世代”の終末医療

先生、相談があるの…。私、今のマンションで長く連れ添ったワンちゃんと二人暮らしなの。大家さんから一代限りということで動物との同居は許されてるのだけど、私ももう76歳(男性、LGBTで女装)だし、最近、体調が悪くなってね…。私の少女のわがママを聞いてくれる施設はないものかしら? **a + b**

先生、私ね～、もう69歳(男性、LGBTで中性風)なのよ。最近、肺がん末期と診断されて“ラジオーションセラピー”を受けたの。これで治療は終わり、一応は大丈夫と診断されたのだけど、同性がとても大好きな私が入居できる高齢者施設ってあるの?少人数の高級感のあるおしゃれで自由なところがいいんだけど…。 **a + e**



当院は、平成7年から国策により開始した在宅介護医療サービスを行っています。そして、現代のニーズとともに、毎月1300名前後の在宅患者さんを約20名の医師と130名のスタッフ(看護師、介護士、その他)でお世話させていただいています。

これまで、在宅介護での難事例は、認知症患者さんの問題行動(暴言、暴力、せん妄など)や末期がん患者さんの難治性疼痛、独居寝たきり傾向などへの対応が主でした。

しかし今は、**a**LGBT **b**動物 **c**独居 **d**高貴なわがママ **e**難病 などの要素をいくつか背負っている患者さんの数が増えてきており、新たな分野の相談が頻回

となっているのです。

ご自宅での対応では、改めて、在宅介護サービスのスタッフへの、時代に合った再教育が求められています。また、施設入居希望の場合も同様です。オーダーメイドな介護サービスに対応できるよう、ハード面(小規模介護施設)、ソフト面(人的サービス能力)での充実が求められています。

「2025年問題」とは、団塊の世代がこれから75歳へと高齢化が進み、有病率人口増加となることを意味し、さらに「2035年提案書」は、その対策を国策として述べられています。その予防策として“健康長寿”といった概念を出し、“病気治療”の時代から

“病気にならない生き方中心”の時代へと人生パラダイムの転換で、全て切り抜け解決しようとしています。

今回のケースは、それだけでは不十分であり、私たち“医療人”に、その対策のさらなる“質”のバリエーションの視座を持つよう語りかけているのでしょう。

医師として、私個人にはそのアイデアがすでにあります。人間の英知は無限です。国の社会保障領域の現実や現場の不必要な規制が無くなれば、一瞬のうちに“ニーズとデマンド”に魅力的な解決がなされ、新しい未来の足音が聞こえてくるのではないでしょうか。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉

人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)現場の人たちを救命救急士として教育する「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



医療法人 東西会グループ

外来診療 (かかりつけ医) **内科** **要予約**
内科・外科・麻酔科・ペインクリニック内科
(来院時)

お医者さんが来てくれる! **24時間・365日体制で対応**
(松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 18名
(令和元年7月現在)

末期がん治療 (緩和ケア) 相談室開設!



(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」三世の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
http://www.touzikai.jp/